## 平成 27 年度 第 1 回中部森林管理局保護林管理委員会議事概要

	十次 27 中皮 第一回中即林州自垤河床设州自垤安县云硪争似安
開催日時 及び場所	平成27年10月1日(木) 14:00~ 15:50 中部森林管理局 大会議室
出席委員	岩月 保樹 (岐阜県林政部森林整備課 課長) 欠席
山师安县	在方   床倒   (吸草乐体或的森体蓝调味   珠皮/   大/   大/
	生方 正俊 (森林総合研究所林木育種センター遺伝資源部 部長)
	奥 敬一 (富山大学芸術文化学部 准教授)
	小宮山 義光 (日本野鳥の会長野支部 幹事)
	西條 好廸 (自然学総合研究所 所長)
	竹中 千里 (名古屋大学大学院生命農学研究科 教授)
	由井 正隆 (長野県木材協同組合連合会 理事)
	委員8名中7名出席 五十音順
議題	(1)保護林の現状について
	(2) 保護林制度の改正について
	(3)「木曽悠久の森」の取組について
	(4) 部会等の設置(案) について
	(5) 当面のスケジュール(案)について
	(6) その他
概要	O 議事に先立ち、委員の互選により、植木達人委員が委員長に選任された。
	〇 議題(1)~(3)について
	・保護林制度の改正により導入された「復元」について、いつの時点の、どのよ
	うな自然植生に戻していくのか、今後議論していく必要性を認識。
	〇 議題(4)について
	・木曽地域の保護林設定検討部会の設置について、部会で検討する区域を「木曽
	悠久の森」の取組区域内へ修正のうえ、了承。
	〇 議題(5)について
	・部会での検討状況を踏まえ、次回の会合を12月10日に開催予定。
	〇 主な意見等
	○ 王々思兄寺   ・復元の概念をどこまで考えるのか。シカの食害も復元を行う要因になるのか。
	・復元の概念をとこまで考えるのか。シカの良舌も復元を行う安国になるのか。
	・ 復元により潜在的自然植生に戻すといっても、現在の土地のポテンシャルでは
	草原のままとういうことも想定される。いつの時点、どの段階を目指すのかを考
	まていかなければならない。 ・ えていかなければならない。
	んしいかなければならない。
	・ 気候変動や地球温暖化の問題で、もう昔のように戻れないところもある。その
	ような場合どうしていくかを考えることが必要。
	い ファウロロ フロ CV T N で T C T C T C T C T C T C T T C T T C T T C T T C T T C T T C T T C T
	・ 保護林制度制定後100年たったとのことだが、保護林設定後に、保護林として
	ふさわしくなくなった場所がないか見極めることも必要。
	からわしてなくなりに物所がないが光極のることも必要。
	・ モニタリング調査等のデータを整理し、保護林を廃止する場合はその理由をき
	・ モーダリング調査等のデーダを整理し、保護体を廃止する場合はその理由をさ ちんと残すことが重要。
	つんこ次サービル、生女。
	<ul><li>・ 今回の再編の一番の目玉は「復元」だが、慎重にいろんな議論を踏まえた上で</li></ul>
	進めていく必要がある。
	- 海峡ルの影響がよしれたいが、周本様が進ましま立いた自然いたくたってしま
	・温暖化の影響かもしれないが、外来種が進入し本来いた鳥がいなくなってしま
	ったところがある。そのような場所で現在のものを排除して、昔の動植物に復元
	するのは容易なことではない。今ある生態系を見ながら考えていくことが必要。
	○ 東教見から会後の手順についての説明
	〇 事務局から今後の手順についての説明 第4点件の保護性の見ました問題。0年報度もかけて議論も深めていたがくる中
	・ 管内全体の保護林の見直しに関し、2年程度をかけて議論を深めていただく予定。